

あなたにも受けてほしい  
子宮頸がん・  
乳がん検診

●子宮頸がんとは●

子宮頸がんは、子宮の入り口にできるがんのことで、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスが原因となって発症します。

HPVは、女性の80%が生涯のうち一度は感染する、ごくありふれたウイルスですが、自身の免疫力で自然治癒する方がほとんどです。しかし、約10%の方が持続的に感染し、前がん病変（異形成）になり、その一部ががんに進行しています。



転用：パンフレット「予防できる子宮頸がん」より  
(財団法人がん研究振興財団 発行)

子宮頸がんは妊娠や出産を控える20～30代の方に、乳がんは家族を支える40～50代の方に増えています。

しかし、どちらのがんも早期に発見することができれば、命を落とすことはありません。

2年に1度のがん検診をぜひ受診してください。そして、家族や友人にも受診を呼びかけてください。

**対 象**▶平成23年度のがん検診を受診していない女性  
・子宮頸がん検診（20歳以上）  
・乳がん検診（40歳以上）

**費 用**▶無料  
**受診方法**▶集団検診（すこやかまたは各公民館）、または個別検診（医療機関）のどちらかをお選びいただけます。ご希望の方は、下記までお問い合わせください

☎健康長寿課（すこやか内） ☎87-0888

がん検診を受けて  
早期の子宮頸がんが  
見つかった方の声

自覚症状はなかったが、私が子宮頸がん検診を受けたのは、2人の子どもを産んでしばらく経った35歳の時でした。身内に乳がんなど婦人科系の病気になった者が多く、自分はどうなのか心配だったことが、検診を受けるきっかけでした。でも「自分は大丈夫」という自信がありました。特に自覚症状もありませんでしたので。

ところが、届いたのは「要精密検査」という検査結果。「何やら？」と思いつつも、すぐに病院で受診したところ、子宮頸部に異形成（がんの一步手前の状態のもの）があることが分かりました。

異形成ががん化してこの異形成は、75%の人が自然に消えてなくなるということで、しばらく定期的に検査をしながら様子を見ることになりました。

しかし、検査中も異形成の状態が続き、それから半年後の検査で、異形成ががん化しているのが見つかりました。

早めの発見が功を奏す

がん細胞を取り除くため、レーザーで焼く治療を2回受けました。効果がありませんでした。そこで医師からは、



細野 清恵さん（41）  
＝野向町龍谷＝

検診でしか見つけれない

乳がんは自分で見つけれないこともありますが、子宮頸がんは検診を受けないと見つけれません。だからこそ、皆さんにはぜひ検診を受けてほしいと思います。

がん箇所だけを手術で取る方法を勧められましたが、再発の可能性も考え、子宮の全摘出を選択しました。

たった数秒の検査

子宮頸がん検診は、綿棒で頸部の細胞をこするだけの簡単な検査です。たった数秒の検査で、がんを見つけることができるのです。

私は子どもを2人産んでいたのですが、子宮を全摘出するという決断ができましたが、早期に発見できれば、子宮を残す治療もでき、その後の妊娠や出産も可能です。

被災地の小学生が  
勝山の夏を満喫！

東日本大震災被災者支援



東日本大震災の被災地支援の一環として、7月28日から4日間は岩手県陸前高田市の小学生4名を、8月1日から4日間は福島県南相馬市の小学生8名を受け入れました。子どもたちは、平泉寺・野向・村岡小学校の児童との交流を通して、「恐竜王国かつやま」での夏を満喫しました。

たくさんのご協力を  
ありがとうございました

この事業に対し、市内食品加工グループの有志や農家の方から、手づくりコロッケやメロン、じゃがいもなどの差し入れをいただき、市内靴販売店からは運動靴の寄附をいただきました。

また、カヌーやキャンプファイヤー、そば打ち体験、ストリートダンス体験などでも、各種団体の皆さんのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。



南相馬市長や参加者からお礼の手紙をいただきましたので、その一部をご紹介します。

このたびは、本市の子どもたちをご招待いただき、厚く御礼申し上げます。本市の子どもたちにとって、今回のご招待は、勝山市の小学生の皆様とのキャンプを通しての交流会、恐竜化石発掘体験や福島県立恐竜博物館見学等、すべてが忘れられない良い思い出になった事と、心から感謝申し上げます。

ご協力をいただきました勝山市の関係の皆様にも重ね重ね感謝申し上げます。

このご招待により、日頃の屋外活動が制限されている児童が、のびのびと自由に時間を気にせず活動でき、同世代の小学生と触れ合えたことは、子どもたちの心のケアへ寄与したものと拝察しております。

勝山市の皆様のおかげで、ご活躍とご健勝をお祈りし、御礼のご挨拶にかえさせていただきます。

南相馬市長 桜井 勝延

3日間で一番楽しかったのは、平泉寺小学校の子たちと泊まったことです。陸前高田市を出発するときは不安だったけど、勝山に行ったら、もっとここにいたいと思ってしまう。短い間でしたがとても楽しかったです。ありがとうございます。

陸前高田市米崎小学校  
5年 菅原 彬人

いろいろとありがとうございました。中でも化石ほりを楽しみました。来年は、家族とまた行きたいです。

南相馬市原町第三小学校  
5年 秋山 友祐



福島県に帰郷

勝山市に避難していた福島県南相馬市・浪江町の17世帯40名が、7月下旬、福島県に帰郷しました。

7月18日には、代表8名が市役所を訪れ、山岸市長へ感謝の気持ちを伝えました。



市長は、「勝山でのいい思い出を忘れず、頑張ってください。1日も早いふるさとの再興を願っています。」と激励しました。

一時移住者からは、「勝山にたくさんの方々ができました。福島県に帰っても交流を続けていきたいです。」など、市民地域、各種団体、そして行政からの様々な支援に対する感謝の言葉をいただきました。

陸前高田市長が来勝

とき▼10月14日（日）  
午前10時  
・戸羽陸前高田市長のトーク  
・戸羽市長と山岸市長の対談  
※詳細は、9月お知らせ版に掲載します